本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道　第96号

発行:2025年12月5日
発行者:浄土真宗本願寺派　長尾山 天龍寺
住職 天野英昭
〒739-0147　東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・fax(082)428-1360

行事予定（１２月～３月）

	日(曜)	時　間	行　事	ご講師	場所
12	18（木）	14：00～15：30	歎異抄輪読会	松田正典先生	本堂
12	31（水）	23：00～0：30	除夜会		本堂
1	23（金）	朝席　9：00～ 昼席　13：00～	御正忌法座	豊田郡大崎上島 浄泉寺　ご住職 加藤一英　師	本堂
3	20（金）	15：00～16：00	天龍寺墓苑合同墓参拝（お彼岸お参り）		天龍寺墓苑
3	26（木）	朝席　9：00～ 昼席　13：00～	春季彼岸法座	志和町 光源寺ご住職 堀　靖史師	本堂

無常(むじょう)を観ずるは菩提心(ぼだいしん)の一(はじめ)なり Ⅰ

度々申してきましたが、勤務していました学校を早期退職させていただき 16 年が過ぎました。

当山はお寺ですので、この 16 年間に様々な年代の方のお葬儀のご縁をいただきました。「老少(ろうしょう)不定(ふじょう)のさかい」という言葉がありますが、老いも若きもこの境涯における、明日の生命(いのち)の保障はないという事を、16 年間のご縁を通して、私なりにご指南いただいたことであります。

しかし、ご当家ご当家の、親しい方、大切な方との別れの悲しみ、寂しさ等は、失礼とは存じますが、私の立場で言えるものではないと思うことであります。

お気を悪くされましたらご理解をいただければ、ありがたいと存じますが、私の拙い人生を振り返り思いますことに、おぎゃーと生まれ、物心ついた頃から「小さな幸せ」を求め、勉強をし、学校を卒業し、働き、結婚をし、子供ができ、退職をし、現在はお坊さんをさせていただいております。

しかしながら、一時的な幸せを得ても、残念ながらこの境涯は、「娑婆（しゃば）」であり「堪忍土（かんにんど）」の世界を生き続けていかなくてはならないのだと還暦を過ぎ 8 年が過ぎましたが、自分なりに実感することです。。

親鸞聖人は、この一度の人生を海にたとえ「生死（しょうじ）の苦海（くかい）」「難度海（なんどかい）」と表現をされております。近頃、このお言葉を自分なりに本当にその通りだと受け止めることです。

一度の人生を飛行機での旅行にたとえてお話をいただいたことがあります。おぎゃーと生まれ、飛行機に乗り出発をし、より長く、より快適に飛行することを願い、乗っている飛行機が、どこに着陸することも知らず、ただただその願いを持って飛行をします。しかし、いつかは燃料が切れ、乗っている飛行機も着陸しなくてはなりません。そのお話をお聞きし、本当に人の人生も同じような物かと考えさせられたことがありました。

その意味でも「往生浄土（おうじょうじょうど）への道」をお示しいただいていることもありがたいことと思うこともあります。

しかしながら一方で、この歳になっても、日々健康・財産・家族等のことに振り回されながら生きている自分に気づかされることもあります。娑婆の縁が切れるまで、このようなことに振り回されながら生きていかざるおえない存在、「人間存在の哀しさ」を、高飛車ながら還暦を過ぎ感じることでもあります。

今申しました「難度海（なんどかい）」を人生にたとえて考えてみますとおぎゃーと生まれ、海を渡りはじめ、いくつもの小さな波、大きな波を、歯を食いしばって超えながら、健康・財産・家族・人の心等々、という板切れにしがみつきながら何とか海を泳いでいるとも考えることがあります。

しかし、「諸行無常（しょぎょうむじょう）」の言葉の通り、この世の全ては、常にあらざる物であり、今しがみついている板切れが、いつ流され・ひっくり返るかもしれないと不安に思いながら、ひたすらこの海を泳いでいる自分であると思うことです。

少し話はそれますが、昔は「長寿」の言葉のごとく、戦争・飢饉・疫病等により、人は長くこの世に生きていくことが出来ないために、長く生きていくことが、喜ばれたとこの点もご指南をいただいたことがありました。

しかし、昨今、長寿社会を迎え、長く生きることが、そのまま人間の幸せにつながるという考え方も昔とは、少し変化しているのだとも、そのお話をいただいた際に、ご指南いただいたことでもあります。（決して長寿を否定しているわけではありません。）

どちらにせよ教え子の人生を含め、どのような人生を選択しても「難度海（なんどかい）」を泳いでいかなくてはならない存在だと思うことです。

（10 年近く前に書いたことを少し手直しました。次号に続きます。）

本年も多くの尊いご縁をいただき、心より御礼申し上げます。
来年も変わらぬお導きのほど、よろしくお願い申し上げます。
寒さ厳しき折、どうぞご自愛のうえ、良いお年をお迎えください。
名号は　こころのあかり　なむあみだぶつ（オー）